

ごあいさつ

わが国の農業は、担い手の高齢化や後継者不足による生産人口の減少、グローバル化による農産物の価格低下など、厳しい状況に直面しています。このため、国においては、農地を集積し、経営規模拡大による効率化を進めることで、競争力を高めようとして取り組みを進めています。

一方、大津市は、南北両端に存在する優良農地を中心に、中心経営体への農地集積を進めているものの、中山間地域の勾配が急な農地や市街化区域に点在する農地などにおいては、効率的な作業が困難な農地が多く、また、小規模農家も多いことから経営規模の拡大を簡単に推進できる状況にはありません。

このため、本市の農業振興にあたっては、生産地と消費地が近いという強みを活かして地産地消を推進するとともに、6次産業化により付加価値の高い商品を開発するなどの取り組みを進めており、平成29年度から12年間を計画期間として策定した「大津市農業振興ビジョン」においても、生産者と消費者が大津市農業のコンセプトを共有し、共に支えていくことに主眼が置かれています。

しかし、ビジョン策定後における都市農業振興基本法の推進や棚田地域振興法の施行、スマート農業の普及や気候変動などへの対応といった環境の変化、担い手の減少により先人から受け継がれてきた農地が失われてしまう可能性が高まっているとの危機感から、このほど令和3年度からの第2期のスタートにあわせて、大津市農業振興ビジョンを改訂しました。

本ビジョンでは、「農ある暮らしがつなぐ湖都のきずな～地域で支える多様な農業、地域でつくる豊かな食～」をコンセプトに、環境の変化に対応した農業就業者や新規就農者への支援によって農地を守り、棚田や都市農地などが持つ農地の多面的機能を大津市の農業の特色として積極的に活かしていくことで持続可能な大津の農業の実現を目指します。

また、市民の皆様が大津の農業を知ってもらい、大津市産農産物を購入してもらうため、生産者と消費者とのつながりを様々な形で創出し、大津ならではの農業を市民の皆様と一緒に作り上げていきたいと考えております。

結びに、本ビジョンの策定にあたりまして、貴重なご意見やご助言を頂戴しました農政審議会委員の皆様をはじめ、関係の皆様から心からお礼を申し上げますとともに、取り組みの推進に、より一層のお力添えを賜いますようお願い申し上げます。

令和3年3月



大津市長 佐藤 健司

第1章 大津市農業振興ビジョンとは	1
1.ビジョン策定の経緯	1
2.ビジョンの位置づけ	2
3.ビジョンの計画期間	2
第2章 大津はこんなところ(大津市の概況)	3
1.自然・地理	3
2.沿革・歴史	4
3.人口	5
4.産業	6
第3章 大津の農業のいま(大津市農業の現状と課題)	7
1.農業が盛んなところはこんなところ	7
2.こんな農産物の生産が盛んです	9
3.農家のみなさんはこんな人	10
4.大津の農業を取り巻くいろいろ	11
5.当初策定(平成28年度)以降の社会情勢の変化(農業を取り巻く情勢の変化)	11
第4章 大津の農業、2029年の将来像(コンセプト)	13
第5章 2029年に向けた「5つの柱」(ビジョン実現の基本方針)	15
第6章 大津の農業、こんなことします(具体的取り組み)	17
1.「人をつくり、仲間をつくる」ー育てよう！次代を拓く担い手の輪	17
2.「土をつくり、畑をたがやす」ー守ろう！実り豊かな農村空間	19
3.「種をまき、育てる」ー探そう！さらなる農の可能性	21
4.「収穫し、お届けする」ー広げよう！農の恵みをどこまでも	23
5.「恵みを味わい、農に親しむ」ー楽しもう！身近な暮らしにあふれる農	25
第7章 みんなで支える大津の農業(ビジョンの推進体制)	27
第8章 参考資料	28
1.懇話会委員一覧	28
2.ビジョン策定までの検討過程	28
3.ビジョン改訂までの検討過程	29
4.用語解説	29
5.大津市農業の基礎データ	33